

キャリア教育の推進に資する森林・林業体験活動について

青森市立北中学校 二学年主任 新貝 亨
青森森林管理署 森林技術指導官 三上 貢
業務グループ ○青山岳彦
業務グループ 藤本正彰
業務グループ 木元翔太

1. はじめに

青森森林管理署（以下「署」という。）では、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの森林の持つ公益的機能に対して世論の注目が集まる中、森林・林業と地域の人々との関わりや署の役割の普及啓発のため、森林環境教育を積極的に実施しているところである。

しかしながら、署が実施する森林環境教育は、その多くがその場限りの体験であるため、単発的な活動に偏りがちであった。その活動自体は、森林を知るきっかけとして重要なものであるが、より深く理解してもらうためには、個々の活動につながりや継続性を持たせることが課題であった。

一方、青森市立北中学校（以下「北中」という。）では、キャリア教育を推進する取り組みの一つとして、以下のねらいを定め、職場体験を実施している。

(1) 地域を支えている産業の現状に触れることを通して、郷土理解を図るとともに、人との関わりから自己の生き方を考えることができるようにする

(2) 職場体験を通じて、職業人としての考え方、生き方に触れ、望ましい職業観の形成に役立てる

今般、署と北中で調整を図りつつ、それぞれの課題やねらいを踏まえたカリキュラムを企画し、二学年の生徒を対象に職場体験を実施した。

2. キャリア教育について

キャリアという言葉には「社会的な役割・活動」という意味がある。これは広い意味での「働く」ということを指しており、職業以外にも家事やボランティアなどの幅広い活動を含んでいる。

このことから、キャリア教育とは「子どもの進路や将来設計に必要な能力を育てることを目的とした教育である」と言うことができる。

また、キャリア教育は小・中・高等学校の総合的な学習の時間を通して行われており、北中では、キャリア教育を推進する取り組みの一つとして職場体験を実施している。

3. カリキュラムの概要

(1) 職場体験の目的

北中は署管内にある眺望山自然休養林の近くに位置しており、森林と身近にふれあえる環境にあるとすることができる（図－1）。

一方、森林が持つ役割はこのような公益的な役割だけではなく、木材を生産するという重要な役割も担っている。

今回の取り組みでは、このような木材生産の役割に着目し、地元で育った立木が人々の生活に生かされるまでの流れを学ぶことを目的とした。



図－1 眺望山自然休養林及び青森市立北中学校の位置図

(2) 職場体験の行程

本活動では、四つの現場学習を中心とした行程を組んでいる（表－1）。

また、北中のねらいでもある地域の産業に触れることを目的として、講師はそれぞれの現場ごとに、地元事業者の方へ依頼をした。

さらに、ふるさとの森が観光資源でもあることを体感できるように、眺望山自然休養林を案内するとともに、危険箇所への看板設置を行うなど、保全活動を行程に組み込んだ。

		内 容	講 師
9/1 (火)	A M	事前講義	青森森林管理署
	P M	蓄積量の調査	青森森林管理署
9/2 (水)	A M	伐採現場の見学	(有)前田林業
	P M	製材工場の見学	齋藤木材(株)
9/3 (木)	A M	木造住宅の見学	企業組合県木住
	P M	自然休養林の維持と管理	青森森林管理署

表－1 職場体験の行程表

4. 職場体験の具体的な実施内容

(1) 森林の働きと業務内容の説明

生徒それぞれが、飯田署長へ自己紹介をして職場体験がはじまった。三日間の抱負を述べた生徒達は、その後、森林技術指導官から管内の概要や業務内容、森林の働きについての説明を受けた（写真－1）。

また、予習を済ませていた生徒達からは「季節ごとの仕事内容について」や、「木の種類はどのくらいあるのか」などの質問が出ており、熱心に取り組む様子が見られた。



写真－1 講義の様子

(2) 立木の蓄積量の把握

午後は国有林の現場へ移動して、測樹体験を行った。生徒達はこのような調査を行うことが予想外であったようで、講師の説明に興味深そうに聞いていた（写真－2）。

また、プロットを設けた調査では、立木の本数や蓄積量の算出を行った。



写真－2 測樹体験の様子

(3) 立木が丸太として生産される工程

二日目の午前中は、国有林の生産請負現場で間伐の作業を見学した。

森林整備官から間伐についての説明を受けた生徒達は、請負業者の講師から伐倒手順の説明を受けた（写真－3）。

また、講師の指導の下、チェーンソーとプロセッサの操作を体験した。三日間の体験で、最も生徒達が目を輝かせていた場面であった。



写真－3 生産請負現場の見学

(4) 丸太が製品となる工程

午後は製材所に移動をし、丸太の皮むきから製品になるまでの工程を見学した。

ここまでの現場学習では、対象となる樹種は「スギ」だったが、同所では「青森ヒバ」を専門に扱っているため、生徒達は漂う香りから、樹種の違いを感じていた。

また、丸太を最大限に有効活用するための木取りや、端材・木くずまでを大切に扱う姿勢に、生徒達は驚きの声をあげていた（写真－4）。



写真－4 製材所の見学

(5) 製品が住宅に利用される工程

三日目の午前中は、住宅建築現場で構造材の使われ方について見学した。

建築士の講師からは、設計図書を実際に見ながら、県産材をふんだんに使用した住宅づくりについて説明を受けた（写真－5）。その中でも、水回りや土台・柱など、用途毎に樹種を使い分けている説明を、生徒達は興味深そうに聞いていた。

また、見学した住宅は、内装材を貼り付ける前であったため、木材がふんだんに使用

されている様子を見ることができた。



写真－5 住宅建築現場の見学

(6) 自然休養林の維持と管理

午後は眺望山自然休養林に移動した。生徒達は、入林者の安全・安心の確保を目的として、パトロールを行うとともに、発見された危険箇所へは注意看板の設置を行った(写真－6)。

また、森林技術指導官から青森ヒバの特性について説明を受けることで、生徒達は身近な樹種や森林への理解を深めていた。



写真－6 保全活動の様子

(7) 職場体験後の活動

職場体験の終了後は、生徒一人一人が個人新聞の作成を行うとともに、文化祭での発表を行うなど、体験を一過性のもので終わらせないための取り組みが実施された(図－2)。

個人新聞では、「木を伐る仕事が大したことだと実感した」、「捨てるところを作らず、

丸太すべてを活用しているところがすごい」、「森林を守り人々の生活を豊かにするには、多くの人に関わっていることがわかった」などの感想があった。

このことから、森林施業の必要性や木材の利用方法についての理解を深めることができたようである。

また、「国民の安全を守れると思うとやりがいを感じる」、「自分に合っている仕事は楽しく思えることがわかった」、「今回のことを将来の職業につなげられたらと思う」などの感想もあった。

このことから、今回の職場体験は生徒達が自分の将来を考えるきっかけにもなったようである。



図－２ 個人新聞の例

5. まとめ

生徒達は、それぞれの現場で森林の管理や木材が利用されるまでの流れを学ぶことで、身近な森林についての理解を深めることができた。

また、学校外で地域の大人と関わりを持つことは、生徒にとって貴重な機会であることから、今回の取り組みの必要性を強く感じた。

一方、講師を引き受けていただいた事業者の方からは「このような活動の積み重ねが、今後林業の発展につながっていくのであれば、これからも是非協力していきたい」という声を聞くことができた。

このことから、今回の取り組みは事業者にとっても意義のあるものであり、林業に関わる仕事の普及啓発を図っていくためにも重要であると感じた。

6. 今後の取り組み

今回の取り組みでは、森林や林業に関わる産業の中で、立木が伐採されてから利用されるまでをテーマとして扱った。

職場体験の日程には限りがあるが、今後、必要に応じて造林作業や ICT を活用した体験を加えていくことで、カリキュラムに厚みを持たせることができると考えている。

また、協力していただいた事業者の方々から、好意的な意見が聞かれたため、今後の取り組みに当たっては、構想段階から意見交換を行うなど、事業者からの意見や提案を積極的に取り入れていくことにより、事業者にとってもやり甲斐のある活動にしていくことができると考えている。

今後、こうした森林・林業体験のカリキュラムを充実させていくことで、キャリア教育の推進に寄与するよう努めていきたい。